

覽

參照日

107

十一月廿九日

一 扶桑山田司令官へ電報

午時五分

二〇三高地ハ其中央戦部ヲ残シ他ノ全部一時我々ニ歸シ居タルモ昨夜探照燈照明ノ下ニ敵ノ逸襲ヲ受ケ遺憾ナカラ又之ヲ失ヒ其後未ダ何等ノ報告ニ接セズ然レモ軍ハ昨夜第七師団全部ヲ同方面ニ増加シ飽マテ其攻撃ヲ續行セラル、決心ナリ

一 海鼠山望樓報告

港内敵艦隊ノ模標変化ナシ威遠砲台ノ備砲二門ヲ引卸セリ午前九時五十分水道内浮標ニアリシ駆逐艦一隻港口ノ破船ニ緊番替ヲナス夕刻港口附近ニ緊番シアル駆逐艦ハ三

北ノ三海鼠山

海鼠山

0900

隻ニシテ港外ニ在ルモノハ昨夕ト全シク四  
五隻ナリ

一 味家溝望楼報告

午前八時五十分五号砲艦双島湾ニ碇泊ス陸  
上ニ於テハ敵鴨湖嘴砲台及西太陽溝北砲台  
ヨリ頻りに二〇三高地ノ中腹ヲ砲撃シ我右  
翼及中央隊ハ空中腹ニ潜伏シテ突撃準備ヲ  
ナシワ、アリ全十時十分礁岨島西方約五哩  
ノ沖ニ於テ日本丸大形汽船(国籍不明)ニ向  
空砲一發ヲ放チ次テ臨検セルモノ、如シ午  
后四時十分濟遠揚武双島湾出港北方ニ向  
全三十分赤城同湾ニ入港午后一時ヨリ全四  
時迄ノ間西太陽溝南砲台及老鐵山砲台ヨリ

0901

参加日  
102

類々ニ太平溝ニ向ヒ砲撃セシモ其損害判明

セズ

一本日附第三軍命令左ノ如シ

第三軍命令  
十一月二十九日午後四時  
於柳橋

一第一師團ノ203高地ニ対スル攻撃ハ頑強ナル

抵抗ヲ排除シ昨二十八日午後七時同高地ノ

西南及東北巔頂部ヲ奪取シ改築ノ事本日は

午前一時頃敵ノ有力ナル逆襲ニ逢ヒ西巔頂

ヲ失ヒ西南部ニ於テハ第二散兵壕ニ東北部

及ヒ赤坂山ニ於テハ突撃準備陣地ヲ設けし

アリ

二軍ハ能マテ203高地ヲ占領セシトス

第一第七師團(歩兵一大隊欠)及目下第一師團

上ノ海軍

海軍

0902

長、隷下ニ在ル諸隊ハ第七師團長ノ指揮ニ

属シ同高地ノ攻畧ニ任シ目下砲撃中ニシテ

明朝突撃ヲ突施スル筈ナリ

第七師團ノ歩兵一大隊ハ軍ノ統備隊トシテ

曹家屯ニ位置ス

三、第九、第十一師團ハ各其擔任地ニ於テ従来

ノ任務ヲ遂行スル外有力ナル脅威動作ヲナ

シ勉メラテ當面ノ敵ヲ牽制スベシ

四、攻城砲兵團ハ<sup>203</sup>高地ノ攻撃ヲ援助シ且ツ第

九、第十一師團方面ニ於テ勉メテ有利ナル目

標ヲ射撃シ敵ヲ牽制スヘシ

五、野戦砲兵第二旅團ハ聯隊<sup>203</sup>現在ノ位置

ヨリ成シ得ル限リ<sup>203</sup>高地ノ攻撃ヲ援助スヘ

0903

103

参加日

シ

六、余ハ依然柳樹房ニ在リ

第三軍司令官奥野爵乃木奔典

一、本日聯合艦隊告不第一九八號ヨリ左ノ四項ヲ

摘録ス

一、香港領事ヨリノ電報ニ依レハ去二十日上海

ヲ出帆シタル英船トシテ千ヤウ號ハ当地ニ入

港シ一兩日中ニ廣東ニ赴キワシプシニ於テ

彈藥ヲ積込ニ膠洲灣ニ至リ場合ニ依リ全地

ニテ不明露艦ノ水兵四五十名ヲ密乗セシメ

旅順口ニ密航スルノ計画ナリトノ情報アリ

二、二十五日奈天津仙波少將ヨリ左ノ電報アリ

敵ハ結氷以前ニ直隸省沿岸ヨリシテ支那公

海上

海軍

0904

ニテ旅順口ニ向テ武器ノ輸入ヲ企テトシ

今ハ受負ノ運動中ナリ間ク所ニ依レハ(不明)

ヨリシテ砲弾六千ヲ多数ノ果物籠ニ入レ馬

車ニテ運動中トノコトナリ察スルニ是等ハ

天橋廠秦皇島洋河々口ヨリ荷積シ夜間ヲ利

用シテ出察スルナラン特ニ警戒ノ必要アリ

三上海三井物産會社來電

英國汽船兩山路ハ鐵具機械用油等ヲ積載シ

廿五日單朝旅順口ニ向ケ上海ヲ出察セリ(船舶

書類ハ完全ニ當口仕向トナリ居レリ)

四旅順方面敵艦艇ノ動靜

廿五日濛氣ノ為メ敵情明カナラス夕刻駆逐

艦三隻入港スルヲ見タリ

0905

四三  
104

參加日

廿六日艦載水雷艇三隻小汽艇二隻出港港口  
ヨリ老鐵山ノ東方迄掃海セリ

十一月三十日

一 枝葉山田司令官へ電報 午後一時發

軍ハ豫定ノ通り本日午前十時ヨリニ。三高  
地ノ攻撃ヲ開始サレタルガ敵ハ之ヲ見テ續  
續兵ヲ同方面ニ増和シ必死ニ防禦セルヲ以  
テ一時其西南ノ高地及赤坂山中腹ノ散兵壕  
マテ突出シタル我兵モ敵ノ猛烈ナル砲撃ト  
有勢ナル逆襲トニ困リ正午頃此ヲ退却スル  
ノ止ムヲ得ガルニ至レリ然レトモ同方面ノ砲  
撃ハ永久的築城ニアラス且脊谷ヨリ我ノ

土佐八三海戦史

海軍

0906

動静ヲ觀望シ得ラル、欠矣アリテ我砲撃ノ  
 殺傷力ハ從來ノ戰鬥ニ比シ著シク多大ナル  
 ヲ以テ軍ハ尚威ニ砲撃ヲ命シ機ヲ見テ更  
 ニ突撃ヲ行ヒ仮令總隊備隊ヲ盡スニ至ルト  
 極力之ガ奪取ニ力メラル、決心ニシテ其意  
 ヲ各部隊ニモ示サレタリ  
 海鼠山ノ渡邊一等信弼兵曹敵弾破片ノ為メ  
 後頭部ニ負傷綿帶所ニ送リタル旨中川少尉  
 ヲリ報告アリ補充方取計ハレタシ  
 一山田司令官ヘ電報 午後七時發  
 本日午後五時頃激戦ノ結果我軍ハニ〇三山  
 西南高地一部ヲ奪取セリ若シ今夕マテ其全  
 部ヲ確獲ニ占領スルコトヲ得ハ今夜其東北

0307



105  
参前日

高地ヲモ突撃ノ豫定ナリ

軍司令官ハ海遠沈没ノ報ニ接シ満腔ノ熱誠  
ヲ以テ其不幸ヲ嘆セラル同方面ノ状況ニ就  
テハ分リ次第報告スベキ旨陳家溝望楼ニ命  
シ置ケルモ未ダ何等消息ナシ只今又貴電ニ  
接シタル故直ニ福島少尉ニ命シ明日正午長  
嶺子桑汽車ニテ可成上級者ヲ杖桑ニ送り詳  
細ニ當時ノ状況ヲ陳述スル様取計ヒ置ケリ  
軍ハ例ノ通り強テ杖隊ノ援助射撃ヲ要望サ  
ル、誤ニアラハルヲ以テ赤城ハ救助事業了  
リ次第青泥窪ニ帰港ヲ命セラル、方可然ト  
思料ス

一山田司令官ヨリ電報

午后七時十四分着

海軍

海軍

0908

濟遠沈没ノ状況至急詳細ニ取調報告セラレ  
ベシ尚<sup>ニ</sup>陳象溝望樓負一名ヲ右報告ノ為メ  
至急本艦ヘ送ラレタル

一陳象溝望樓ヘ電諾 午後七時五分發

扶桑司令官ヨリ濟遠ノ状況報告ノ為メ其望

樓負一名至急扶桑ヘ送ルベキ旨申来リタル

ニ付明日正午長嶺子祭ノ汽車ニテ可成上級

ノモノヲ遣シ本日目撃セシ事情ヲ陳述スル

様取計スベシ尚<sup>ニ</sup>出祭前双島灣ニ在ル船隻

ニモ問合シテ可成委シク報告セシムルコト

必要ナリ當方ニモ同様委シク電諾ニテ報告

セヨ

一海軍陸戦重砲隊司令部ヘ電諾

一龍王塘望樓へ電話

海鼠山海軍望樓ノ渡辺一等信号兵曹重傷ニ  
 テ尺今第七師団ノ第一野戦病院ニ在リ至急  
 杖桑ニ送還スル為メ貴隊ノ縮帯所ニ送ル同  
 艦ヲ後送方可然御取計ヲ乞フ

左ノ通り杖桑西参謀へ傳へラレタシ  
 渡邊兵曹ハ陸戦隊ノ手ヲ経テ杖桑ニ歸スコ  
 ト、セリ其代リニハ上田信号兵ヲ海鼠山ニ  
 送りタル故若シ信号兵ナケレバ氣ノ利キタ  
 ル水兵ニテモ宜シキ故一名至急当方へ送ラ  
 レタシ右杖桑副長ニモ可然御傳ヲ乞フ

又土屋中將ノ負傷ハ輕傷ナレド内地ニ歸還  
 ノエトニ決シ明日着泥窪ニ至リ便服ヲ待テ

出発セラル、苦ナリ委細ハ書面ニテ通知ス  
ル筈ナルモ右不取敢土屋参謀へ御傳へヲ乞  
フ

一陳家溝望樓報告

軍艦濟遠午後二時十五分当望樓ノ西方約三  
海里沖ニ於テ械械水雷ニ罹リ全ク沈没ス今  
赤城五号砲艦之ヲ救助中委細ハ追テ報告ス  
一秋山聯合艦隊参謀書信要旨

今回第三軍ノ目的ヲ達セサリシ悲報ヲ得タ  
ル時ハ吾々一同初瀬八島告野ヲ失ヒタル時  
ト全一ノ感覺致レ之ト全時ニ乃木閣下初メ  
第三軍将卒ノ心中ヲ察シ轉々全情ノ涙ヲ禁  
スル能ハサルヲ相覚候下然是ハ實ニ我帝國

0911

四五五

参川日

107

ヲ勅興セシテ他日旅順ヲ永久ニ占領スヤキ  
 為テニハ少クモ我々ノ拂ハザル可ラザル犠  
 牲ニテ其犠牲ノ大ナレハ大ナル程占領ノ理  
 由ト價值ヲ強大ニシ後日ニ於ケル光輝アル  
 歴史ノ材料ト可相成候得者今日ハ悲觀ノ時  
 節ニ無シ更ニ益々勇ヲ鼓シテ最終ノ目的ヲ  
 達セザル可ラズ夫レ就テモニ〇三高地ノ占  
 領ハ刺下ノ急務之ヲ奪取スレバ實際ノ價值  
 ニ於テ望台一帶ノ地域ヨリモ海軍ノ見地ヨ  
 リスレバ貴重ナル矣アリ何トナレバ港内ノ  
 展望最モ良好ナレバナリ故ニ更ニ一萬ヲ換  
 スル決心ヲ以テ新手ヲ繰代ヘ敵ノ疲憊  
 ニ乘シテ占領ヲ果サレシト切望ニ堪ヘス

本館入館券

海軍

0912

實ニ二〇三高地ノ占領如何ハ大局ヨリ打算  
 シテ帝國ノ存亡ニ關係シ候得者是非  
 續決行ヲ望ム數日來ノ劇戰豫備矣ニ疑シキ  
 敵ハ必ズ少ラガル疲勞ト困難アルベシ我ノ  
 苦ム丈々支々敵ノ苦ムハ当然ノコトニテ今  
 回ノ惡戰ヲ以テ一意ニ我ノ不利ニ悲觀スルハ  
 却テ不利ヲ大ニスルモノハ必ズ此度ノ  
 惡戰リ結果カ他日ニ現レ來ル事ハ確信致候  
 何卒乃木閣下艦地知參謀長大庭副長等ヘモ  
 術自重ノ上鐵意最終ノ目的ニ向ヒ奮進サレ  
 シコトヲ傳傳へ被下度艦隊ハ能迄モ耐忍ス  
 ベシモ頭此成果ニハ失望致サス又本日「アラ  
 シル」駐劄本邦公使ヨリノ電報ニ依レバ「アル

四五之  
108

センタイン共和國ハ其軍艦ヲ交戦國ニ賣却  
 セサルヲ言明セリ左スレバ波爾的艦隊何程  
 ノ事アルベキ警テ擊滅シテ御覽ニ入レル故  
 唯今日第三軍ニ切望スルハ来月十四五日頃  
 迄ニ旅順艦隊ノ戦艦三隻ヲ無能ナラシムル  
 ノ一事ニ御座候其爲メニハ二〇三高地ノ占  
 領ヨリ外ニ策ナカラシ生ノ豫想ニテハ明  
 三十日ハ或ハ又目的ヲ達セサルヤモ知レス  
 去レハ更ニ新子ヲ以テ明後十二月一日ニ突  
 擊セハ必ス確鑿ニ我ヲ歸スルナラン然ル  
 後敵艦ノ處分ニ移レハ来月八日頃ニハ我々  
 ノ希望ヲ満足セシムルニ至ラン懸察スルニ  
 敵ヲ斯ク迄モ頑固ニ死守スルハ彼等ニ取

0914

リテ旅順ノ價値ハ貴重ニシテ敵ニモ旅順ノ  
 存亡カ國家ノ存亡ニ関スルモノニテ波艦隊  
 来ルモ旅順艦隊アラサル時ハ我ニ對シ勝美  
 アル攻勢ヲ取ルコト能ハザレバナリ之ヲ以  
 テ觀ルトキハ旅順ノ攻略ニ四五萬ノ勇士ヲ  
 擲スルモ左程大ナル犠牲ニアラズ彼我共ニ  
 國家存亡ノ関スル処ナレバナリ兎ニ角此處  
 一息ノ根氣ニアリ眼前死傷ノ慘状ハ暫ク  
 眼中ニ置カス全軍必死必勝ノ覺悟ヲ以テ極  
 力此目的ノ達成ヲ努ムルヨリ外今日ノ場合  
 知ル者アリト雖モ他ニ策アルヤキ筈ナシ  
 一本日附聯合艦隊告示第一九九號ヨリ左ノ一項  
 ヲ摘録ス

0915



四七  
169  
参州日

一、旅順方面敵艦艇ノ動靜

二十七日砲艦一隻汽艇一隻出動セシヲ見シ

ノミ濃氣ノ為メ港口ノ状況明カナラス

二十八日約三百噸位ノ汽艇出港セシカ引還

シヨク州ジヲ止ニ横附ス大型汽艇一隻出港

暫時ニシテ入港ス

日誌

海軍

0916

井七八年海軍史

海軍

0917

十二月一日

一、扶桑山田司令官へ震報 午前十時五分發

昨三十日發赤城艦長報告本日濟遠沈置水雷

二觸レ沈没ス遭難者副長以下十五名下士以

下百七十九名ヲ五号破艦ニ乗レ明日青泥渚

ニ回航セシムル豫定委細ハ到着ノ上報告ス

右報告ハ震誌編纂ノ為メ非常ニ遲着ス又意

義不確ノ点アルヲ覓ニ回返シ置キタルモ未

夕莫答ヲ得ス

一、山田司令官へ震報 午前十時發

昨夜ニ。三高地ノ北東部ニ併セテ我兵ノ占

領スル所トナリタリ而シテ其後數回ノ逆襲

ニ遇ヒ南西高地ハ再々之ヲ失フノ悲運ニ陥

四百一

0918

リレハ終ニ又之ヲ回復シ今ヤ赤坂山ノ頂点  
 ヲモ我カ有ニ飯シテ尚モ中央鞍部ニ止テリ頑  
 強ナル抵抗ヲ持續シツ、アル敵ト交戦中ニ  
 アリ軍ハ本日モ引續キ砲撃ヲ加ハ此殘敵ヲ  
 撃攘シテ全部ノ占領ヲ確實ニセシトテ極力  
 其ノ年配ヲ講セラル

ニ山田司令官ハ電報

午後五時發

ニ〇三兩高地ノ中間鞍部ニハ暗路ノ設ケア  
 リテ敵ノ防守頗ル堅ク之ヲ崩メ反テ赤坂山  
 ニ在ル我カ兵先ヲ撃退セラレ兩高地ニ在ルモ  
 ノモ亦特校欠乏等ノ弊メ見維持大ニ困難ナ  
 ルガ如シ仍テ我カ軍ハ特別援隊ヲ編制シ午  
 后三時ヲ期シテ此頑強ナル敵兵ノ撃攘ヲ図ル

策ナリシガ全部ニ通セル我カ交通路甚ク危峻  
 ニレテ之ヲ進ムルモ到底成効ノ見込ナキ為  
 メ已ムヲ得取止メ今新ニ劃策中ナリ  
 本日兎玉滿洲軍総策謀長當軍ニ未着直ニ策  
 一師團司令部ニ赴カレタリ恐ラク程ナクシ  
 テ話合ナル運動再興セラルニ至ルナラシ  
 ト信ス

一、枝葉兩卷課ヨリ 廣報

午後五時三十分着

十五栖移轉問題ハ目下如何ナル趨勢ニアリ  
 十四十七密輝薬及綿火薬ヲ急ニ要求セラル  
 等ノコトハナキヤ準備ノ都合ヤリ着令伺  
 7

一、西卷課ハ 廣報

午後九時着

世七八年海軍史

海軍

十五枚移轉問題ハ特ニ何等ノ變化ナシ唯豫  
 備砲床ハ可成早ク竣成シ置カレンコトヲ望  
 ム四十七發彈藥六千發ハ貴地ニ準備シアル  
 筈今日ノ處ニテハ先ツ支度ニテ充分ナリ錦  
 大藥ハ多々登々辦スル有様ニフキ差支ナキ  
 限り銃々供用サル、ヲ得ハ軍ハ大ニ之ヲ歡  
 迎セラル、コト、思惟ス目下凡ソ何吉瓦位  
 要求ニ應セラレ得ベキヤ内報アリタシ  
 一山田司令官へ震報  
 午後十時發  
 赤城艦長報告昨三十日 本艦陸上砲撃中濟遠  
 ハセントアツプス、北西約二海里ノ辺ヲ北  
 方ニ向ヒ徐航シアリシが午後二時二十分頃  
 突然同艦ニ黒烟上ルヲ見ル依テ本艦ハ直ニ

三三  
3

射撃ヲ止メ之ニ向ヒシモ全艦ハ倏ニシテ沈  
 没セシヲ以テ巳々ヲ得ヌ見附近ニ投錨シ遭  
 難者ノ收容ニ努メシガ之ヨリ先キ濟遠ト本  
 艦トノ間ニ在リタル五号砲艦モ亦直ニ之カ  
 收容ニ從ヒ繞キテ中蒸汽艇モ来リテ之ニ協  
 カレ為メニ救助サレタルモノ副長ヲ初メト  
 シテ准士官以上十五名下士卒百七十九名内  
 五名ハ死傷者ニシテ又行衛不明ノモノハ但  
 馬艦長ヲ始メトシ柏木少尉森田少尉中根中  
 機副士及准士官三名下士卒二十七名ナリト  
 ス水雷ハ最鐘下ニ於テ爆発セシ趣ニ依リ  
 判定スルニ全ク沈置ノモノニ相違ナカラシ  
 本艦ハ長時間ノ射撃中敵彈艦ノ附近ニ落下

出七ノ年海戦史

海軍

0922

セシモ唯水面ニ於テ爆裂シタル小弾片飛来  
リテ一名ノ軽傷者ヲ生シタル外損傷ヲ蒙ラ  
ズ、本日風波高ク陸上トノ交通ヲ得ず五号砲  
艦ノ出港モ之ガ爲メ延ハセリ

一、西参謀ハ震報

午後十時卒

陳家溝望樓負ハ午後九時長嶺子砲台車ニテ  
見地ニ向ヘリ多分今夜防備隊ニ泊リ明朝貴  
艦ニ達スベシ渡辺信雄兵曹モ又同時ノ汽車  
ニテ見地ハ後送セシ旨陸戦重砲隊軍匠長ニ  
リ通知アリタリ可然御配慮ヲ乞フ

一、海嵐山望樓報告

夕刻東港内ノ模様ハ別ニ異状ナク至テ静肅  
ナリ水道防材ノ閉塞ハ依然タリ港口附近ニ



223  
4

碓泊スル駆逐艦三隻ニシテ港外ニ在ル艦艇ハ  
昨日ノ如シ本日屢次電話不通ニシテ充分ナ  
ル報告ヲ為ス能ハズ

一、陳家溝望樓報告

港内敵艦ノ位置昨日ノ如シ双島灣ニハ赤城  
及五号砲艦碓泊ス

二、秋山聯合艦隊參謀書信要旨

二〇三高地占領ノ捷報ニ接シ欣喜雀躍<sup>致</sup>今  
後ノ事ニ就テハ最早申上ル迄、必要無之ト  
存美得共唯重テ一言ヲ添ユレバ一日モ早ク  
在港敵艦ニ対シ猛烈ナル榴彈砲射撃ヲ開始  
セラレ具港外ニ出テサル前ニ港内ニテ自滅  
セシムルノ方針ヲ取ラル、事ニテ艦隊ニテ

七七八三海軍

海軍

敵艦一隻ノ片付ク毎ニ一隻宛修理ニ飯航  
 セシム可ク莫又駆逐艦水雷艇ノ如キモ着レ  
 得レバ多数ニ飯航修理セシメタキニ付十五  
 母十二母速射砲等ハ敵ノ駆逐艦ノ群中ニ下  
 瀬彈射撃ヲ試ムル様頼ハレク將又近來密輸入  
 該艦ノ情報頻々到来スルヲ以テ入航スル流  
 航ハ勿論在港艦艇モ一々撃沈サル、事必要  
 ト存莫尚\*砲力ニ餘裕アラハ赤十字隊ニ拘  
 泥セズ太陽溝ノ新市街ヲ燒撃サル、カ宜シ  
 シ今ヤ敵ハ多大ノ死傷ヲ生シ人手足ラズシ  
 テ大困憊ノ極度ニ可有之候得者更ニ此上苦  
 痛ヲ加フレハ氣力弱中ニ直ニ降意ヲ生  
 シ降意ヲ生カルモノ多数トナレハ如何ニカ

オークランドラケエンコリアリトテモ多数ニ  
 壓セラレテ終ニ屈服スルニ至ル可キ手ト存候  
 是迄ノ敵抵抗ノ模様ヲ觀ルニ波尔的艦隊到  
 着迄ハ是非共旅順ヲ支持セシト決心セル  
 モノ、如ク此ノ如キ堅固ナル抵抗カヲ屈ス  
 ルニハ文明的慈惠手段ヨリハ寧ロ野蠻的威  
 嚇手段ノ方遙ニ効力多大ナラシト存莫本日  
 濟遠ノ悲報ニ接シ哀痛至極ニ存候乍然是亦  
 聯合作戦上我艦隊ノ至當ニ拂フヘキ犠牲ト  
 思ヘハ決レテ大死ニハ有之間敷唯願フハ  
 人タリトモ生存者ノ多カランコトヲテ艦其  
 物ハ日清戦役ノ残滓左程惜シキ品ニモ無之  
 程ヲ我艦隊従来ノ戰鬥力ニ影響スル虞更ニ

止七ノ三海戦中

海軍

無之ト存候波尔的艦隊ハ一昨二十九日亞非  
 利加西岸ウオルフイツシユ港沖ニテ載炭中  
 トノ英回電報有之候之ニ依リ推測スルニ英  
 艦隊ノ航行速力ハ九海里ニテ途上載炭ニ各  
 地三日乃至五日ヲ費ス知クナレハ身サレテ  
 海峡附近ニ達スルハ一月中旬ト豫想被致夫  
 コリ編制区分ヲ定メ警戒レテ此上セハ帝國  
 近海ニ入ルハ一月下旬ヨリ二月上旬ト至ナ  
 ルバク又ハ二月九日ニ新規將直シノ大海戰  
 ヲ開始スルト思ヘハ宣敷候第三軍ノ死傷モ  
 必ク二万以上ニ出スタルベク為メニ戰鬥  
 力モ大ニ減シタル事ト存候得共敵モ必ク莫  
 比例以上ニ損害アルベケレハ今後ハ敵艦隊

四  
六

破ト港内ノ要地砲撃トニテ敵ヲ苦メニ貴山  
 松樹山方面ハ穴道進攻ヲ漸進セシメニ〇三  
 高地方面ヨリ第一第七師團ノ兵力ヲ以テ太  
 陽溝附近ニ攻陣ルノ気勢ヲ示シ時機ヲ見テ  
 下意ニニ貴山ニ奇襲サルレハ是モ下日我存  
 ニ帰スヘク推察致シ美之ト全時ニ展般溝  
 方面ニ砲力ヲ移動シ得レハ海嶺山ニモ  
 海軍十二挺砲位ヲ増加セラレ該方面ヨリ威嚇  
 砲撃サルコト最モ必要ト存候又王家店ノ  
 ニ十八挺六門ハ出来得レハ水師營附近迄モ  
 前進サルコト將來ノ万一ニ対シ必要ナラ  
 ンカトモ存候免ニ角ニ〇三ナル天王山カ我  
 有ニ帰シタル以上ハ最早旅順ノ死命ヲ制セ

海軍

海軍

ラレタルト全様ニテ少生ハ第三軍が何故ニ  
早ク此地ヲ取り然ル後正面ニ從掛リセラレ  
ホリシカノ理由ヲ今日尚キ不審ニ思ヒ展候  
將來第三軍作戰ノ方針ヲ判断スルノ必要上  
今回ノ從死傷殘彈藥額相分リ候得者御内報  
煩シ度シ

一、本日附聯合艦隊告示第二〇。號ヨリ左ノ二項ヲ摘録ス

一、信ズベキ情報ニ依レハ旅順口唯一ノ密輸入  
場所ハ老鐵山頂ノ西北海岸柳家孫ニシテ同  
地ニハ急造砲台アリト云フ

二、旅順方面敵艦艇ノ動靜

二十九日港口例ノ位置ニ  
ルノミ港外敵艦艇ヲ認め不

十二月二日

一、技兼山田百令官へ電報 午後一時五分發

今朝第一師團司令部ニ在ル兎王大將ヨリ軍

司令官へ我兵ノ占領シアルニ。三高地西南

ノ一角ヨリ旅順港内ノ敵艦十餘艘見ユル旨

通知アリ仍テ軍ハ豫テ準備シアル電線ヲ其

所迄延長シ又觀測所ヲ其所ニ假設シテ急速

砲撃準備ハ着手ヲ命セラルタルヲ以テ中夜

ハ又中川少尉ニ命シテ當該部隊長ノ指示ヲ

受ケ適當ノ時機ニ至ラハ現場ニ至リ視察報

告スベキ様取斗ヒタリ然ルニ今朝飯来シ夕

ル軍勢謀長ノ談ニ依レハ該高地ハ尙敵ト

接近シ互ニ爆撃ヲ投シテ鬥争シテアリ且

北支那海軍史

海軍

0930

我兵ノ影ヲ見レハ直チニ敵ノ諸砲台ヨリ  
 集注砲火ヲ蒙ムルカ故ニ觀測ノ目的ヲ達ス  
 ルコトハ未ダ困難ナルベシトノコトナリ又  
 同方面ハ戰鬥開始以來約一万ニ近キ死傷者  
 ヲ生シタルヲ以テ其混雜一方ナラズ屬メニ  
 我交通路モ自由ニ通行スル能ハサル慘状ヲ呈  
 シ且前線ニ在ル兵ハ將校ノ大分ヲ失ヒタ  
 ル各隊混乱シ現状頗ル不整頓ナルヲ以テ引  
 續キ攻撃ヲ行フコトハ到底不可能ナル状態  
 ニ在リ已ムヲ得ス軍ハ一時現状ヲ維持シ部  
 隊ノ整頓ヲ待テ再々攻撃ヲ継続セラルハ心  
 算ナリ其時機ハ未定ナルモ同官ノ語気ニ依  
 リ察スレバ早クモ明日昼クモ明後日ナラン



ト惟ハル小官ハ今日リ全方面ニ出張シ現在  
 ノ状況ニテ果シテ観測射撃ヲナレ得ルヤ否  
 ヤヲ確カシメ又次固攻撃ノ期日モ尚カ確定ニ  
 間カシ重テ速告報告スハシ  
 一、枝葉西兼謀ヨリ来震 午後二時着  
 濟遠枝隊引揚ケタル后ハ双島嶼方面ニ十二  
 所速射砲一二門備付クル必要ナキヤ御攻究  
 ヲ望ム尚カ濟遠集員ノ行衛不明其他ノ漂流  
 物ニ就テハ御配慮ヲ乞フ  
 一、山田司令官ヨリ電報 午後二時三十分着  
 聯合艦隊司令長官ノ命ニ依リ濟遠枝隊ハ今  
 二日ヲ以テ双島嶼方面ヨリ引揚ケ余ニ陳家  
 嶼望樓ハ當分存置ス右第三軍司令官ヘ傳ヘ

北七ノ...

海軍

0932

ラレタシ

一陳家溝望樓へ電誌

午後四時発

山田司令官命令、濟遠枝隊ハ今日ヲ以テ

其方面ヨリ引揚ヲ余ス貴官ハ明日揚武ノ

到着ヲ待ケ其出来得ルニ濟遠集貨ノ行衛

不明者及漂流物ノ搜索ヲ遂ケテラハ春日汽

艇ヲ収容シ一旦富津汽艇ニ飯航復余ノ後察

輸入防過ノ本任務ニ就クヤシ

一山田司令官へ電報

午後四時三十分發

中川少尉ニ〇三西南高地ニ行キ目撃セシ所

ニ依レハ全高地ハ豫期セシ通り旅順港内全

部残ラス瞰制スルコトヲ得刻下ハヤリトハ

東港内ノ南方中央ニ艦首ヲ北ニ向ケテ繫留

0933

一、アムール川ハ其北方ニ在リセヤウズホリハ  
 船渠内々若クハ其附近ニ在リ其他ノ諸艦ハ  
 皆白玉山ノ南麓ニ集マリベレスウエー上ハ  
 老虎尾船台ノ北方ニ艦首ヲ北東ニ向ケテ繫  
 留レホルタリハフペレスウエー上ノ東方約ハ  
 百未突ヲ距テホブイタハフペレスウエー上ノ  
 南東ニフレトウヤホレハフボル所ニ東方ニ又  
 ハルヲダレハフホマリカノ東方ニ在リト云フ尚  
 委細ハ後ヨリ報告ス

一、西条謀ヨリ電報

午後六時辛分着

一、濕綿火薬二十吉瓦乾綿火薬三十吉瓦明日午  
 後箱詰出来ル送ルベキヤ尚ホ供用ニ得ル数  
 量ハ取調ハ内報スベシ空箱返却ハ出来サル

止七ノ八

海軍

ヤ貴官附屬トシテニ等水兵水島勇藏今朝出

奔セリ

六、陳家溝望樓へ震詔

午後七時五分奔

赤城艦長へ傳へり

山田司令官命今具艦ハ最早濟遠ノ行衛不明

者及漂流物搜索ノ必要ナレト詔メナハ揚武

ノ到着ヲ待タズ春日汽艇ヲ護衛ニ使宜當地

ニ飯航スヤレ揚武ハ明三日午後四時頃陸城

島ニ寄泊翌四日見地着ノ豫定ニシテ同艦ニ

ハ春日汽艇ヲ搭載スルコト不可能ナリ

一、西条謀へ震報

午後九時奔

烽火臺ハ直ク奔送ヲ乞フ空箱ハ直ク返却ス

ニ様軍司令部ヨリ工兵廠へ申渡サレタリ尚

\* 其方ニテ受取人ニモ直接其意ヲ通セラル  
 度々双角嶮方面備砲ノ件ハ詮議中濟遠ノ後  
 事ニ就テハ軍ニ状況ノ同情ヲ以テ諸事尽カ  
 セラル

一山田司令官ハ電報

午後九時發

今夕第一師團司令部ニ到着ニ。三高地西南  
 ノ一角ヨリ實地視察セタル中川少尉ノ談ヲ  
 聞クニ全高地ヨリ港内ノ敵艦隊全部ヲ望觀  
 セ得ルコトハ確實ニシテハヤレシムル  
 ハ東港内ニセヨリストおリハ船渠内ニ其他ノ  
 主力艦隊五隻ハ白玉山ノ南西麓ニ在ルコト  
 ヲ確認セリト云フ仍夫目下ノ大急務ハ一刻  
 モ速ニ觀測所ヲ北麓ニ設ケテ之ヲ砲撃スル

世七人三海軍史

海軍

0936

二在ルコトハ論ヲ待タスト密モ既電ノ如ク  
 同高地ノ占領ハ未ダ確實ナラズ從テ掩蔽物  
 ノ構造等甚ダ不完全ナルヲ以テ若シ現状ノ  
 儘ニテ一タヒ砲撃ヲ開始センカ直ニ猛烈ナ  
 ル敵砲火ノ集注ヲ受ケテ観測所ヲ破壊セラ  
 レ其目的ヲ達スルコト能ハサルニ至ル虞ア  
 ルノミナラズ有カナル敵ノ逆襲ニ遭ハハ到  
 底之ヲ維持シ難カルバシ左リトテニ。三高  
 地ノ全部ヲ確實ニ占領シ得ルハ果タレラ何  
 レノ日ニアルヤ殆ト予期シ難キ状態ニア  
 ルヲ以テ軍ヲ刻下ノ大局ト現状トニ鑑ミ先  
 ツ明日中ニ出来得ル尤ノ堅固ナル観測所ヲ  
 以テ設ケ又一方ニハ敵ノ逆襲ニ対スル充分

十、防禦物ヲモ構成シテ明後日ヨリ一時  
 二十、八、梅砲ノ猛烈ナル砲撃ヲ開始シ以テ可  
 成短時日ノ内敵艦隊ヲ殲滅スルノ方針ヲ採  
 ルコトニ決定セラレタリ蓋シ次回ノ突撃ハ  
 容易ニ行ハレ難キ模様ニテ貝助日等勿論未  
 夕決定セラル、ニ至ラス要スルニ軍ハ今日  
 ノ場合唯此重要ナル西南高地ヲ維持シ得テ  
 敵艦砲撃ノ目的ヲ貫徹セシコトニ全カヲ傾  
 注シツ、アルノミ

一、石川陸戦重砲隊策謀ヨリ電話要旨

本隊青泥灘ニ在リシ項礮ヲ三笠ヨリ供給サ  
 レ居タル金切鋏四百個ノ内百個ヲ残シ三百  
 個ハ軍ニ於テ鉄條網切断用トシテ必要ナリ

北支那軍艦隊

海軍

トテ貸與ノコトニ取手ヒタルコトハ御託臆  
ノ筈ナルガ今間三笠ヨリ本隊ニ送テ右銃整  
理ノ為メ取調ノ必要アル趣申来リタルニ付  
キ軍ニ貸與シタル三百個ノ分ハ貴方ニ於テ  
証明書作成直接全艦砲術長加藤少佐ニ送付  
相成様致度

一、海軍山笠樓報告

午後五時三十分頃駆逐艦一隻港口破航ヨリ。  
水道内南西ニ在ル浮標ニ繫留地ヲ慶ス夕刻  
西港内共至テ静肅ニシテ少シノ煙モ上ケス  
又水道内ノ防材ハ昨日ト全ク消滅シアリ  
二、陳家溝望樓報告

早朝双島嶼ニ赤城五号砲艦碇泊シ居タルガ



砲艦ハ午前八時出港南方へ航進セリ  
一、秋山聯合艦隊兼謀書信要旨

昨夜モ海上ヨリノ觀察ニ依レハ、時々砲火及  
光輝ヲ見且ク探照燈ハ殆ラニ。三高地ヲ照  
ラス様子ナリシヨリ、判断シ必ス教回ノ逆襲  
アリシコト、想像致す素ヨリ旅順、死命ヲ  
制スル要地ナレハ尚、連夜逆襲可有之曩ニ  
劍山スラモ二砲試ミタル位ナレハ、此、要地必  
ス三四度、逆襲アルベキト當然ニ候得者  
充分ニ防禦工事ヲ施サレ、又々不慮ヲ取ラカ  
ル様切望ニ堪ヘス之ガ爲メ、敵艦砲撃ノ開始  
延引スルモ已ムヲ得ナル次第ニ御座矣敵艦  
砲撃ノ順序ハ爲シ得レハ、積艦ニシテ且ク最

北支那海軍

海軍

0940

有カナルコトウキヤレヨリ遣付ケ次ヲ和  
 べリトボル所ヲ次テペレスウエリトセバ  
 トホリトヤナバヤレト順序カ適當ナルバ  
 リ莫オス斯ク都合好ク注交通ニ参ルモノ  
 ニ無之候得者必ス之ニ御拘泥ノ必要無  
 之候ニ。三高地ノ逆襲ハ其度毎ニ敵ノ兵力  
 ヲ減殺スルコト大ナレハ旅順ヲ屈服セシム  
 ルニハ何回アリテモ多キ程宜敷若シ敵カ根  
 氣ト必要ト意地トニ依テ連日連夜逆襲シ吳  
 ルレハ全局ノ上ニハ真ニ都合宜シク遂ニハ  
 兵力盡キテ二童山方面ニカ為メニ我有ニ  
 飯ニ陥落ヲ早ムルニ至ルマク候故ニカ生ノ  
 切ニ頼ツ所ハ軍ハ必要地古領ヲ確實ニセラ

ル、ヨリハ寧口不確實ニテモ幾度モ之ヲ奪  
 取スル決心ヲ止メラレハランコトニ御座美  
 先々侵ニモ申上候如クニ。三高地ハ旅順ノ  
 天王山ト云フヨリハ日露戦争ノ天王山ナレ  
 ハ敵カ死力ヲ盡シテ恢復ヲ計ルコト當然ニ  
 テ。順モニ。三ノ為メニ陥落レ露國モニ。三  
 ノ為メ敗滅センコト小生ノ預言スルヲ憚  
 ラサル所ニ御座美  
 二。三高地鞍部ニ暗路アリテ敵ノ逆襲支へ  
 難キ由美以テ残念至極ニ御座美。然レモ永久築  
 城ニアラハレハ。此地点ニテ敵ヲ殲殺スルノ  
 大決心ヲ以テ攻畧ヲ続行サレシコト切望ニ  
 堪へ。不第三軍ノ将卒モ疲勞ノ極度ト存候得

0942

共同隊安危ノ関スル所今一奮發アラレコト

奉祈

下本隊軍令在如

附第三軍命令

十月二日午後五時  
加柳樹房

一、第一、第七兩師團攻撃地区ノ境界ヲ左ノ如ク

定ム

由家屯東端一七四高地巔頂、ヤマコ山西端寺

見溝西方谷底及石板橋ニ通スル線

二、第七師團長ハ一時第一項境界線以西ノ地区

ヲ現在セル諸隊ヲ指揮シ該地区ノ守備ニ任

シ且ニ三高地ノ攻撃ヲ継続スヘシ

三、第一師團長ハ一時第一項境界線以東迄未ノ

地区内ニ現在セル諸隊ヲ指揮シ同地区ノ守

備ニ任シ且ニ第七師團ノ二〇三高地攻撃ヲ

援助スヘシ

但シ目下水時營B堡壘附近ニ在ル歩兵第  
三十五聯隊第二大隊ハ軍ノ直屬トス

第三軍司令官男爵乃不希典

一、本日附聯合艦隊告不第二〇一号ヨリ左ノ二項ヲ摘録ス

一、第三軍系謀長来電

(一日午前一時五分發電)

二〇三高地ニ対シ三十日拂曉ヨリ砲撃ヲ用

始シ午前十時第一ノ突撃ヲ施行セシモ敵ハ

大ニ増加シタル形跡アリテ奏効ニ至ラズ仍

テ再々精密ナル砲撃ヲ加ヘ午後四時第二ノ

突撃ヲ行ヒシモ敵ノ猛撃ニ遇ヒ目的ヲ達セ

ズ大孤山及竜山展望所ノ報告ニ依レバ敵

ハ三十日朝ヨリ午後二時頃迄陸續増加兵ヲ

世ノ...

海軍

送り百乃至二百名宛一團トナリ合計約千  
 五百名ハ南麓ヨリ巔頂ニ前進セシ加其都度  
 我砲火ヲ受ケ多大ノ死傷者ヲ生シ死屍累々  
 ヲリ其後ハ此運動ヲ見ルコトナカリシト午  
 右五時頃西南部ニ向ヒタル部隊ハ第三ノ突  
 撃ヲ行ヒ巔頂下約三十米突ノ地点ニ達セシ  
 之ヨリ前進スルトキハ大陽溝方面ノ砲台  
 ヲ集中火ヲ蒙ル悲ノアリシヲ以テ日没  
 ヲ待テ更ニ突進スルニ決セリ  
 我砲兵ハ日没迄砲撃ヲ加ヘ歩兵ノ進出ヲ容  
 易ナラシメタリ午後七時西南部ニ向ヒテ部  
 隊ハ増援隊ト共ニ喊声ヲ發シテ巔頂ニ進出  
 シ全三十分東北部ニ向ヒタル部隊モ又大声

ヲ揚ケテ突入シ八時全ク西巔頂ヲ占領セリ  
 第七師團長ハ敵ノ逆襲ニ備ヘ且テ其占領ヲ  
 確實ニスル爲メ新鋭ノ兵力ヲ加ヘ目下麻堀  
 工事中ナリ数日來ニ。三高地ノ攻撃ニ於テ  
 敵ハ全カヲ盡シテ防禦シタルモノ、如ク從  
 テ其抵抗頗ル頑強ニシテ其死傷多大ナリト  
 信ス

ニ旅順方面敵艦艇ノ動靜

三十日大形曳船用汽艇一隻出港老鉄山ヲ廻  
 リレモノ、如クナリシガ暫時ニシテ引返セ  
 リ

一、本日附七戰機密第三三二号ノ二左ノ如シ

第七戰隊訓令

三十七年十二月  
 於第十地点校乘

世七八半海戦史

海軍

0946

一、但馬杖隊及赤城ハ今二日ヲ以テ双島灣方面  
 ヨリ雷青泥窪ニ引揚ケ復命ヲ終ラハ各艦左  
 ノ任務ニ就ク可ヘシ  
 (イ) 齊遠ハ青泥窪ニ在リ後命ヲ待ツベシ  
 (ロ) 揚武ハ再々七戦機密第二八八号ノ密輸入船  
 監監視部署ニ就クベシ  
 (ハ) 赤城ハ密輸入防遏ノ本任務ニ復ス可シ  
 (ニ) 第五、第六仮装砲艦ハ密輸入防遏隊トナリ赤  
 城艦長ノ指揮下ニ入ルベシ  
 二、赤城艦長ハ第五、第六、第七仮装砲艦ヲシテ一艦  
 宛交迭敵情ト天候ノ許ス限リ晝間鉄島附近  
 迄適宜巡邏セシムベシ  
 三、宇治ハ雷青大連灣ノ警備ニ任シ且、臨時台



南丸ニ代リ、七戦機密第三四一号ノ任務或

ハ傳令勤務ニ服セシムルコトアルヤシ

四、第二艇隊ハ青浜窪ニ在リ通信勤務ニ服スベ

シ但、中平島及青浜窪間ノ通信艇ハ當分小

平頭所在艇隊ヨリ出サシム

五、第二十一艇隊及第六艇隊ノ二艇ハ大連灣工

作部ニ就キ出来得ルニ至リ完全ノ修理ヲ施行

スベシ

第三艦隊司令官山田彦八

十二月三日

一、伴東軍令部長ヨリ復報、午前七時五分着

左ノ通り第三軍司令官ハ傳ハシムル

北平軍艦隊

海軍

0948

敵ハ陣地ノ鎖鑰トシテ極方防守シツ、アル  
 高地ニ今ヤ殆ト全ク我軍ノ有。取セシト  
 レテ其南西隅ニハ既ニ觀測所ヲ設置セラル  
 、由實ニ慶賀ニ堪ヘズ就テハ不日愈々敵艦  
 隊ヲ砲撃セラル、場合ニハ勉メテ短少ノ時  
 間ニ可成多數ノ巨弾ヲ集團シ敵ヲシテ更ニ  
 狡策ヲ施ス違ナカラシムルノ方針ヲ取ラ  
 ルコト、海軍ノ切ニ希望スル所ナリ  
 一、江口赤城艦長當該處諸 午後〇時十五分着  
 漂着物取集中ナリ揚武到着ノ上天氣好ケレ  
 ハ五日春日汽艇ヲ曳キ飯航ノ途ニ就ク予定  
 一、三笠參觀ヨリ復報 午後二時五分着  
 南シ得レハ二〇三高地ノ敵ノ屍體ニ海軍兵

參加日

ノ有無取調ベラレタシ

一 枝葉西条謀ヨリ度報 午後三時五分着

湿綿火薬二十吉瓦乾綿火薬三十吉瓦本日攻

城工廠ニ渡セリ後ハ何難準備シ置ケト貴方ヨ

リ内報ヲ受クル方万事便利ナリ渡辺ハ昨ニ

日飯未入院衣類ハ後送ヲ望ム十五梅砲床ニ

内分ハ富地ニテ明日中ニハ出来上ル豫定ニ

シテ佐世係ニ要求ノ二所分モ明日頃ハ送出

ス運ニナリ居ル等

一 枝葉山田司令官ハ度報 午後九時着

明日ヨリ敵ノ艦隊砲撃ヲ開始スルコトニ

決定セラレタル趣昨同度報ニ置キタル處砲

ノ移轉及兵ノ作業豫期セシ如ク進捗セズ

上七人

海軍

0950

一旦構成シタル觀測所今朝敵輝ノ射メ  
 破壊セラレタル等諸種ノ手遣アリタル等々  
 遺憾ナカラ其砲撃ヲ明後五日ニ延期スルノ  
 已ムヲ得ナルニ至レリ軍司今官ハ之ヲ為メ  
 非常ニ苦心セラレ小官ニ語ヲラルニ明後  
 日ハ如何ナレ障集アルモ之ヲ排シテ必ス砲  
 撃ヲ開始スベキ旨ヲ以テ至急其趣ヲ艦隊  
 ニ傳ヘヨトコトナリ仍テ今後ノ戦況ニ重  
 大ナル變化ナキ限リハ必ス明後日ヨリ之ヲ  
 実行ナルコト疑ナキ儀ト御承知アリタシ

一、海軍山望糧報告

午前十時四十分水道内浮標ニテリレ駆逐艦  
 一隻港口破船ニ繋留替午後五時三十分右破

參り目  
四十七  
18

船ニ緊留シアリニ駆逐艦三隻ノ中二隻ハ港  
外ニ出テ一隻ハ水道<sup>内</sup>浮標ニ飯ル  
一陳家溝望樓報告

港内敵艦ノ位置昨日ノ通りナリ但砲艦ヲ  
シキモノ一隻(二本橋ニシテ魚煤電信ヲ有ス  
烟突不明)ヲ増加シ夕リ午前十時頃港外ニ

味方駆逐艦七隻行動スルヲ見レ双島<sup>灣</sup>ニハ  
赤城砲台

一秋山聯合艦隊參謀書信要旨

如何ニ大急ヨリ打算スレバトテ二万有餘ノ  
大損害而トモ作戰ノ目的ハ充分ニ達セラレ  
不憐絶悲絶如何ナルヤ生モ筭三軍ノ將卒ニ  
對シ同情悲痛ノ熱淚ヲ禁ズル能ハサル次第

止七ノ三海軍

海軍

0952

御座矣乍然已ニ度々申上候様ク敵モ多大  
 ノ損害タルコト必然ナレバ其防禦兵力大ニ減  
 少シタルコト疑ナク此ノ悪戦ノ結果ハ必定警旅  
 順陥落ノ大原因ト可相成全局ヨリ打算シテ  
 決シテ不利ニ有之間敷ト愚信候連日連夜  
 ノ激戦若門定メテ吾忠勇ノ軍人モ疲シ果テ  
 テ精氣ト根氣継続セサルベク寔以テ遺憾ナ  
 可ニ御座候此上ノ攻撃ヲ第三軍ニ望ムハ最  
 早無理ノ注文タルベク候得者軍ヨリ御要求  
 アラハ新ニ陸戦隊ヲ編制シ在来ノモノト合  
 シ敵ノ困憊ノ極度ニ乘シテ突撃ヲ試シテ宜  
 シナルベク国家ノ存亡ニハ代ハ難ケレハ如  
 何ニモシテ此ノ機ニ乘シ新兵力ヲ以テ二〇三

四六八  
19

參加日

高地ノ奪取ヲ企圖致度若シ今日ヲ延引スレ  
 バ敵ハ又々防禦工事ヲ増加シ更ニ教方ノ勇  
 士ヲ失ハテハ攻界到底見込無之故數日ノ内  
 ニ攻界出来テハ取り直サズ永久ニ出来  
 サルコト可相成旅順陥落セズ旅順艦隊殘  
 存セハ最早大勾誘等相立不申何卒刻下第三  
 軍ノ内情ヲ精密ニ觀察セラレ現下當艦隊ニ  
 テ崩シ得ヘキコトハ断然決行可致ニ付主忌  
 憚ナク御申越(御筆廣)被下度奉伏願候  
 (別信)貴墨落宰御申越、青泥窪兵站監部ニ在  
 ル捕虜ハ佐世保ニ送致セラレ差支ナレ第三  
 軍ノ現況莫ニ痛歎ノ極ニ御座矣殊ニ乃木閣  
 下ノ御心中ヲ推量スレハ吾々ノ困難苦心ノ

北七ノ三海軍

海軍

0954

如キハ教ニモ魚之小生ハ未ダ其頭失望セズ  
 大局ニ於テ第三回旅順攻撃ハ戦略上ノ捷利  
 ト大觀ニ居レバナリ見テレヨ此攻撃ノ大結  
 果ハ程ナク現ハレ来ルベキヲ生命モ保登モ  
 入ラヌト覚悟セル小生ニハ如何ナル悲境モ  
 悲觀スル能ハズ悲觀ハ畢竟慾望アルモノヲ  
 襲撃ス一切ヲ是空ト大觀シ人血ヲ濺キテ地  
 球表面ノ大舞台ニ一生ノ通樂トシテ一芝居  
 ヲナシツ、ヤリト思ハ青天白日万事万物  
 我目ヲ慰メタルモノナレ此憂唯全局ヲ大觀  
 レ一生ヲ樂觀スルニ在リ天ハ必ず序圖ニ與  
 ス近々ノ内人カノ及ハサル意外ノ点ヨリ勇  
 武能倫ナル第三軍、怒眉ヲ開クノ時節必ス



四七九  
20  
参加日

到来スベシ大胆ハ自然ヲ信シテ人慾ヲ滅  
スルニ在リ国ノ為メトカ君ノ為メトカ言ハ  
ル内ハ未ダ慾アルナリ自己ヲ死シタリト觀  
念シテ君国身家一切ノ慾ヲ断テハ人生ハ何  
時モ樂天地ナリ呵々

別信別紙小生ノ愚見ヨリ申越シ是迄屢次効  
驗アル易断ニテ内ニ十二月六日ハ旅順ノ片  
付ク日ト予言致居或ハ然ランカトモ存候免  
ニ角天ハ帝國ニ喫ニ居候得共威効ハ人力  
ニ須タナル可ウナル次第ナレバ第三軍今一  
息ノ奮發カ最モ肝要ト存候別紙易断ハ連日  
ノ悪戦ニ疲勞苦心セラレ居ル第三軍將卒魁  
安ノ一助トモ可相成ト存ニ候紙ノ終貴覽ニ

世々八軍海戦中

毎軍

0956

供レ候

一、本日附聯合艦隊告示第二〇二號ヨリ左ノ二項ヲ摘録ス

一、上海總領事ヨリノ電報ニ依レハ汽船西山(シ

ーシヤン)ハ諸種ノ情報ヨリ見ルニ其旅順口封

鎖ヲ破ラントスルモノナルコト疑ニナク又汽

船通洲(トシクヤウ)モ全一ノ目的ヲ有スルモノ

ト認メラルトシ

芝罘領事ヨリノ電報ニ依レハ汽船レナリニツ

チエルレハ糧食及彈藥ヲ搭載シ十一月三十日又

ハ十二月一日膠洲灣ヲ發シ封鎖ヲ破ルベシト

二、旅順方面敵艦艇ノ動靜

一日濠気ノ霧ノ利然セサレトモ港外艦艇ノ出

動セシモノナキカ如シ